

漢方の病理観

獣医師 医学博士 小松靖弘

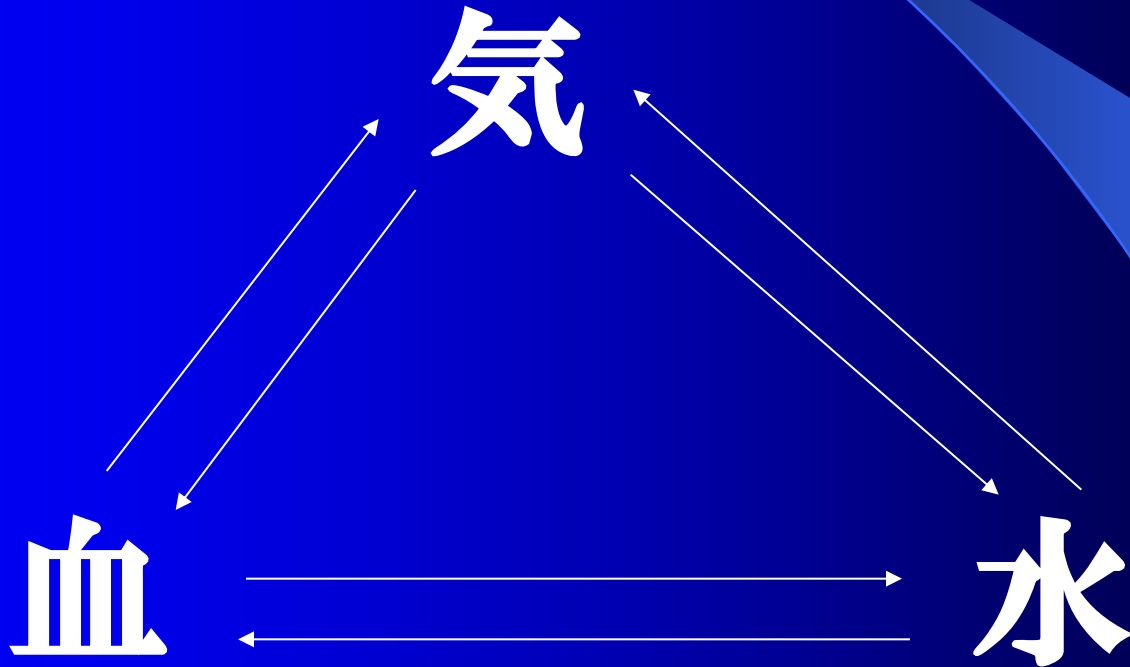
有限会社 サン自然薬研究所

東京都中央区銀座3-12-6

北里大学 生命科学研究所 和漢薬学講座 講座研究員

生体の恒常性維持機構

漢方医学では生体の異常、病気が起こるのは、
体内の水の流れ、気の流れ、血の流れの異常が原因で起きる
と考えた。



生体の恒常性維持機構

気、血、水を現代医学で言うと

下記の様に言える

神経

神経伝達物質

アドレナリン、アセチルコリンなど

インターロイキン
免疫液性因子、インターフェロン
など

ステロイド ホルモン

免疫

内分泌



気、血、水、

漢方では病理学的所見は病気の本体では無く、
陰影であり、焼け跡である。

病気の原因：目に見えない病邪が体に入り、
病(やまい)を起こす。

身体への入り方が3通りある。

3機能系を介して入り込むと考えた。

1) 病邪が「水」の系を介して

2) 病邪が「血」の系を介して

3) 病邪がその他の系「気」の系を介して

気、血、水

(気、血、水)は生体の異常を説明する生理的因子

気の異常：「こころ」の異常、暖気、腹満、「空気」停滞に
常。「こころ」と「からだ」を結ぶ機能系の異常

「元気」が無い！「気が廻らない！エネルギーが出ない！

よる異

血の異常：「血の不足」生体の物質的不足から来る機能障害

「血の停滞」微小循環障害、

皮膚の状態が悪い！ 貧血！

水の異常：浮腫、体液など水代謝、水流れの障害

発汗、排尿の異常

(漢方診療のレッスン)

花輪 壽彦 著 から

「気」の異常症状

気虚：元気がない、だるい、疲れ易い、貧血
意欲・食欲の減退

四君子湯、補中益気湯 人参、黄耆、甘草、大棗

気滞：頭が重い、咽喉がつまる、胸脇が痛む
腹が張る、四肢の痛み

半夏厚朴湯 枳実、木香、半夏、厚朴、香附子

気逆：発作性の冷え、のぼせ、動悸、頭痛、不安
焦燥、発汗、暖気、

桂枝甘草湯 桂枝、呉茱萸、黄連、竜骨、牡蠣

「血」の異常症状

血虚：「血」の不足；乾燥肌、髪が抜ける、爪の異常
不眠、集中力低下、こむら返り、血行不良
四物湯、十全大補湯、 当帰、地黄、川芎、芍薬

瘀血：「血」の停滞；口渇、色素沈着、痔、疼痛
月経異常

桂枝茯苓癌、当帰芍薬散 桃仁、牡丹皮、芍薬、当帰
瘀血：「微小循環障害」「血行不順」

「水」の異常症状

水毒：「水滯」；体液の分布に異常、滞留
浮腫、眩暈、立ちくらみ、悪心、下痢
頭重感、
五苓散、猪苓湯、真武湯
茯苓、朮、沢瀉、麻黄、防己

漢方の診断法

四診

- 1) 望診: 視診
- 2) 聞診: 聴診、臭診
- 3) 問診: 問診
- 4) 切診: 触診(脈診
腹診)

陰陽

虚実

寒熱

六病位

太陽病期	表の熱症
小陽病期	半表半裏の熱症
陽明病期	裏の熱症
太陰病期	半表半裏、裏の寒症
小陰病期	裏の寒症(に半表半裏)
蕨陰病期	裏の極度の寒症

六病位による認識

- **太陽病期** 表の熱症 **抗病性が強い**
脈：浮；頭と項：強張り、疼痛；悪寒
- **小陽病期** 半表半裏の熱症
微熱、高熱（回帰熱）、食欲不振
- **陽明病期** 裏の熱症
高熱、口渴、便秘傾向にある
- **太陰病期** 半表半裏、裏の寒症 **抗病性が弱い**
- **小陰病期** 裏の寒症（に半表半裏）
- **蕨陰病期** 裏の極度の寒症

六病位による認識

- 太陽病期 表の熱症 感染初期 急性炎症期
- 小陽病期 半表半裏の熱症 感染の持続、遷延
- 陽明病期 裏の熱症 感染の臓器への展開
感染抵抗性も減弱、
感染の全身への展開
- 太陰病期 半表半裏、裏の寒症
- 小陰病期 裏の寒症（に半表半裏）
- 蕨陰病期 裏の極度の寒症

五臓

「肝」：自律神経系、視床下部、大脳辺縁系機能、ストレス社会では「肝」の異常は日常的で心身症は「肝」の異常

「心」：血液循環、神経高次機能；血液細胞（赤血球、白血球）の供給、血液幹細胞の賦活、生体全体の機能維持

「脾」：消化、吸収機能、脾胃；単に消化吸収の機能を意味するだけでなく、「自己、非自己」についても認識

「肺」：呼吸器系機能；呼吸法は生体への酸素供給の点から重要、細胞機能の維持

「腎」：成長、生殖、老化、水分代謝；老化に対する処置として、「腎」（内分泌）機能の賦活が重要